

日本語学習者の文章のわかりにくさに関する実証研究 —ストーリー説明文・意見文の場合—

田代 ひとみ

学位取得年月：平成18年9月

取得学位名：人文科学博士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】文章、説明文、意見文、言語面、内容面

【要旨】

本研究は日本語学習者の文章のわかりにくさの要因を解明しようとしたものである。研究課題Ⅰ（【研究1】【研究2】）では、学習者の文章を日本語母語話者（JP）の文章と比較分析し、言語面の特徴を見た。研究課題Ⅱ（【研究3】【研究4】）では、文章の読み手の存在を視野に入れ、【研究1】【研究2】の作文を読み手の評価別にグループ分けした。その比較分析の結果を言語面の特徴と対比し、わかりにくさに最も関与する要因を探った。

【研究1】で、JP、中国語母語話者（CN）、韓国語母語話者（KR）によるストーリー説明文を比較した結果、学習者にテ形中止接続の多用が見られた。また、視点の取り方が学習者にJPと異なる点が多く、これらが特徴となっていることが明らかになった。

【研究2】では、意見文を比較分析した。その結果、原因・理由節の使用数はJPと学習者は殆ど差がなかったが、JPは原因・理由節以外に多様な表現を用いて理由を表していた。条件節ではJPが仮定条件で反論を行うことが多く、学習者は恒常的条件で根拠を示す使用が多かった。さらにCNは順接的展開が中心的で、譲歩節と逆接節、逆接の接続詞の使用が少なく、逆接的接続で反駁を加える展開が少ないことも特徴と考えられた。

【研究3】で【研究1】のストーリー説明文を高評価群と低評価群に分け、低評価群になった学習者の文章の要因を探ったところ、低評価群に言及情報が少ない点は【研究1】の結果と異なった。しかし、テ形中止接続の使用が多い点、連体節の非限定用法の使用が少ない点、視点の取り方が異なる点は【研究1】と同様であった。

【研究4】では、【研究2】の意見文を高評価群と低評価群に分け、低評価群の学習者の文章の要因を探った。その結果、低評価群に論理的表現の使用は大きな差がなく、課題に答える意見を表明していない等の点が明らかになった。次の意見表明群（課題に答える意見を表明しながら、高評価群は入らなかった群）と高評価群との比較でも、言語面において論理的表現がJPとほぼ同程度に使われ、論理的に展開しているように見えるが、内容面では主張の根拠部分の分量が少ない、根拠が説得力に欠けるという問題が見られた。

【研究1】と【研究3】、【研究2】と【研究4】をそれぞれ対比すると、ストーリー説明文では語彙、文法の問題がわかりにくさの大きな要因となったが、内容面も書き手に委ねられる意見文では、内容の問題が最もわかりにくさに関与することが明らかになった。第二言語習得途上の学習者は言語面に処理が費やされ、内容面への配慮が少なくなると考えられることから、ライティング指導では内容面に注目させる必要性が示されたと言えよう。また、言語面でわかりにくさに関与する点・関与しない点も示され、これらはライティング、文法指導への示唆となると考えられる。

(たしろ ひとみ)